

ホスピタリティについて

Club Je Pence 201807

インターネットでホスピタリティを検索すると、

「接客・接遇の場面だけで発揮されるものではなく、

人と人、人とモノ、人と社会、人と自然などの関わりにおいて具現化されるものである。

狭義の定義では、人が人に対して行なういわゆる「もてなし」の行動や考え方について触れていて、

これは接客・接遇の場面でも使われるホスピタリティのことである」

という説明が出てきます。

ここだけ読むと「**なんだ、おもてなしのことか**」と考えて

滝川クリステルをイメージしてしまいそうですが、実際はそこまで単純なものではありません。

ジュパンセではホスピタリティをどう捉えるか。

一般的な認識とは少々異なりますので、まずはそこを明確にします。

ジュパンセにおけるホスピタリティの概念

構造を俯瞰し、正確に近い分析をした上で、それを行動に移せる技術

と考えてください。

逆から見れば、構造を読めておらず、ゆえに分析も、それに応じた対応もできていないケースを

「ホスピタリティがない」と表現します。

ホスピタリティがあるとどうなのか、なかったらどうなのかを先に明示しておきましょう。

ホスピタリティがある

- ・人生やお金、仕事などで自由度が格段に上がる
 - ・何か困ったことがあっても解決が早くなる
 - ・いわゆる「幸運」を体験しやすくなる
- ・人から信頼されやすくなる、いい人間関係ができやすい

ホスピタリティがない

- ・生きづらい、不自由を感じる場面が多い
- ・悩みが解決しにくい
- ・いわゆる「不運」を体験しやすい
- ・人から信頼を得られにくい、いい人間関係ができない

このように、ホスピタリティのあるなしで日常生活は180度違ったものになります。

極端なことを言えば、ホスピタリティがないと大損するわけです。

ホスピタリティのない人の多くは「損したくない」という感情が強いので、皮肉な結果ですね。

では、ホスピタリティがあるというのを、ジュパンセ式でまた別の表現にしてみます。

相手に気を使わせないように、気を使うことができる

これもまたホスピタリティの高さを表す言葉と言えるでしょう。

ホスピタリティの高い人は相手がより心地よく楽しく有意義さを感じて

その場にいることができるようにするために、相手にできるだけ気を使わせないように

立ち居振る舞いや気遣いができるということです。

これは「場」や「互いの持つ言語体系」が俯瞰できていないとできることではありません。

ホスピタリティのような概念や感覚に触れたことがなかったり、

またそういう人と縁がなかったりすると、

ここに臨場感を持つことが非常に難しかったりもします。

言葉ひとつ、仕草ひとつ、メッセージ1通などで

ホスピタリティのあるなしは丸わかりだったりしますし、

それだけで実は相手から

「この人はもう次回はお声をかけない」

と判断されることも多々ありますが

臨場感を持ったことがなければ何がどうホスピタリティのあるなしに

関係するのかわるでイメージがわからないわけです。

臨場感を持つためにまず「相手を心地よく楽しくさせる」を

マインドセットとしてみましょう。

さて、今までの経験を思い出してみてください。

気を使わなくてもいい相手、友達、同僚はいませんか？

居心地のいい場所やコミュニティ、環境はありませんでしたか？

お気に入りのカフェやホテルなど、何時間でもそこにいたくなる場所でもいいです。



それらは、あなたの性格に合っていたから気を使わなくて済んだのではなく、
あなたに気を使わせないように気を使っていた「場の支配者」がいた可能性があります。

別の見方をすれば、あなたに「性格に合っている」と思わせるように誘導するのが上手な
メタ思考を持つ何者かがそこにいた可能性があるということです。

これは悪い意味でも、陰謀論的な考え方でもなんでもありません。

普通に日常的にあることです。

例えば・・・

「家が一番落ち着く」とその家のお父さんが言っているとしたら

もしかしたら、お母さんが「お父さんが一番落ち着けるような環境」を作るために

影でたくさん気を使って動いている可能性がありますね。

Aちゃんの家に遊びに行くと、つい楽しくて長居してしまう、と思うとき。

そのAちゃんはあなたが長居したくなるような部屋を作ってくれている可能性がありますね。

舞浜にあるディズニーランドが好きな人は多いですね。

運営している人たちが、来場者が「大好き」と言ってくれるような場所にするために

細部まで計算しつくして行動しているからですね。

今の例で挙げた3つは、お父さんも、Aちゃんの家遊びに行く人も、
ディ○ニーランドに行く人も、あくまで主体的に「自分が心地いい」としか思っていない。

自分がそう思った、自分がそう感じた勘違いしているわけです。

心地よくさせられた、とまで思う人はそうそういないはず。

これが、気を使わなくてもいいように気を使うことができる、です。

上級者になればなるほど、このホスピタリティを実行している誰かが

どこにいるのか、何をしているのかが見えなくなります。

自分を薄める、エゴを落とす、メタ思考して場の上にいる、ができているからです。

いやらしい言い方をすれば、

「褒めて欲しい」「自分がやってるといふのを見て欲しい」みたいな気持ちで

場を作ろうするのはホスピタリティと言うには浅いです。

単なる自己顕示欲、自己重要感、承認欲求の表れです。

(別に思っているですよwスキゾ感覚はこういう時に使います)

必然的にそうなるとも言えますが、

強者は非常にホスピタリティが高いですし、自然とそれができています。

ジュパンセで目指しているのはあくまであらゆる意味での「強者」ですので

できる限り、これらを意識してホスピタリティを発揮していきましょう。

先に話した、ホスピタリティのあるなしで人生がどう違うかという理由は見えてきましたか？

もう一度出します。

ホスピタリティがある

- ・人生やお金、仕事などで自由度が上がる
- ・何か困ったことがあっても解決が早くなる
- ・いわゆる「幸運」を体験しやすくなる
- ・人から信頼されやすくなる、
いい人間関係ができやすい

ホスピタリティがない

- ・生きづらい、不自由を感じる場面が多い
- ・悩みが解決しにくい
- ・いわゆる「不運」を体験しやすい
- ・人から信頼を得られにくい、
いい人間関係ができない

先ほどの「遊びにいくと長居したくなる家」の人で説明しましょう。

ホスピタリティが高い A さんは、誰かが家に来るとなったら

その人が心地よく気兼ねなく過ごせるように徹底的にリサーチし、準備をしておくような人です。

かといって、わざわざ恩着せがましいことも言いません。

A さんの家に遊びにきた人は、その心地よさに感激し、A さんともっと仲良くなりたいと思うでしょう。

A さんの家で素敵な時間を過ごしたので、お礼に何かをあげたいと思うかもしれない。

A さんが困った時に、心から心配して手を差し伸べてくれる可能性も高いですね。

これだけ素敵な時間を演出できる人なのだ、と信頼も厚くなり、

いい人脈や仕事を紹介してもらえる可能性が高くなります。

ホスピタリティが高いといい人生になりやすい、の意味がご理解いただけたでしょうか。

ついでに逆のパターンも説明しておきますね。

ホスピタリティの低い B さんは、誰かが家に来るからといって特に何もしません。

自分の家だから自分の好き勝手にすると言って、来た人も特別な楽しい時間は過ごせませんでした。

B さんは後日「うちに呼んでやった」と恩着せがましい発言もします笑

B さんの家に来た人は、部屋が汚くて特にいい思いもしなかったので B さんを敬遠します笑

あとで恩着せがましいことも言われたので、悪評も立ちました笑

B さんは仕事で困ったことがありますが、

「あいつを助けたらなんか面倒なことになりそうだし」と思われ助けてもらえませんでした。

いい人脈の集まる食事会がありましたが、B さんは気遣いができないという理由で

呼んでもらうことはできませんでした。

という感じで、ホスピタリティがないといいことが起きにくいわけです。

このように、ホスピタリティのあるなしで数日後、数年後の状況の一切が変わります。

厳しいことを言えば、今不運だったり楽しくなかったり、

自分にとっておもしろくないことが頻発するのであれば、

過去の自分に高いホスピタリティがなかったのではないかと逆算してみてください。

過去の自分が、誰かにそうしていただいていると思わずに身勝手に楽しんでいたり

心地いいと思っているだけで周囲への気遣いはなし、などばかりだったら、

当然ホスピタリティは低くなりますので不運や困難が自然と増える傾向があります。

まずは「場」や「言語体系」を俯瞰する訓練からしてみましよう。

その「場」において、自分は人をイヤな気分させていないか。

その「場」において、自分は相手に「この人には気を使わないといけないな」と

思わせるような行為をしていたり、言葉を使っていないか。

その「場」において、状況や環境の判断や感じようとするものの前に

自分の感情を稚拙にむき出しにしていないか。

こういった「場」や「言語体系」の無視が、

結果的にご自身を面倒な状況に追いやっていくというわけです。

自分の常識は他人の非常識であるということを忘れずに、

どうすれば相手に気を使わずにいけるかを考えて行動してみてください。



ホスピタリティの高い人生を！